

日本脳炎予防接種を控えましょう！

厚生労働省から各市町村に対し、日本脳炎ワクチン接種の積極的勧奨を差し控えるようにとの勧告が出されたことにより、伯耆町として日本脳炎予防接種の実施を差し控えることとしました。

この度の勧告は、日本脳炎ワクチン接種後に重い神経症状を起こした事例について、現行のワクチンとの因果関係が厚生労働大臣により認定されたことによって出されました。

現在、現行のワクチンよりも危険性の低いワクチンを開発中であり、新ワクチンが供給できるようになりましたら、接種勧奨を再開する予定です。それまでの間、日本脳炎予防接種の対象年齢に該当されている方は、接種を控えてください。

日本脳炎ワクチン接種Q & A

Q 1 日本脳炎とは、どんな病気ですか？

A 1 日本脳炎ウィルスの感染によって起こる中枢神経（脳や脊髄）の病気です。ヒトからヒトへの感染はなく、豚などの体内でウィルスが増殖された後、その豚を刺したコガタアカイエカ（水田等に発生する蚊の一種）等が、ヒトを刺すことによって感染します。東南アジア・南アジアにかけて広く分布する病気です。

Q 2 日本脳炎の予防接種を受けたのですが、大丈夫でしょうか？

A 2 日本脳炎ワクチンの副反応としての神経症状は、70～200万回の接種に1回程度、極めてまれに発症すると考えられています。万が一、発症しても通常は軽快し、その後の再発は見られません。

予防接種によると考えられる神経症状は、通常ワクチン接種後、数日～2週間程度の間に発熱、頭痛、けいれん、運動障害等の症状があらわれます。症状が疑われる場合には、医療機関において、医師等の診察を受けてください。接種を受けても症状のない場合は、健康診断や検査を受ける必要はありません。

Q 3 新しいワクチンができるまで、予防接種は全く受けられないのですか？

A 3 日本脳炎の流行地域（朝鮮半島、台湾、中国、ベトナムなど）へ渡航する場合や蚊に刺されやすい環境にある場合など本人または保護者が特に希望する場合は、今回の措置及び予防接種の効果及び副反応について医師から説明を受け、同意書に署名したうえで接種されることは差し支えありません。

Q 4 日本脳炎にかからないためには、どう予防したらいいですか？

A 4 現在の日本は、蚊のウィルス保有率の減少、環境改善による蚊に刺される機会の減少などにより、日本脳炎に感染し発症することは、極めてまれだと考えられますが、一般的な注意として、以下のことに注意し、蚊に刺されないよう気をつけましょう。

- (1) 外に出るときは、蚊に刺されにくい格好を心がけましょう。
- (2) なるべく草むらに入らないようにしましょう。
- (3) 虫除けスプレー等を使用しましょう

問い合わせ先

健康対策課 ☎ 68 - 5536